

2013年 8月1日 NO.55



# イルカ通信

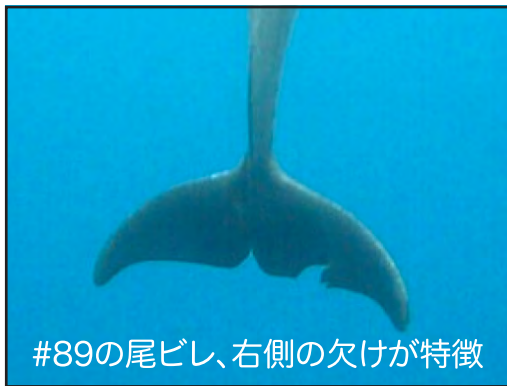
隔月 1 回発行  
バックナンバーは無料でダウンロードできます  
(下記参照)

## 「すくすく育っています」

ようやく梅雨も明けて、いよいよ夏本番を迎えようとしています。今月は、ミナミハンドウイルカの話をお伝えしようと思います。個体識別番号 #89は、イルカ調査隊が結成された2003年より前から父島周辺で、毎年確認され続けているイルカです。識別の大きなポイントは、尾ビレ右側の欠けになります。



先月撮影した#89と子ども



#89の尾ビレ、右側の欠けが特徴

2012年の6月には、新生児を連れていることが確認されました。そして先月、#89が同じ子どもを連れて、泳いでいるところの確認されました。乳離れするにはもう少し時間がかかりそうですが、このまま無事に大きく育ってくれることを願うばかりです。これからの時期は、赤ちゃんイルカに出会うこともあると思うので、その際は親子に配慮したウォッチングをお願いします。

## 「硫黄列島で出逢った鯨類たち」

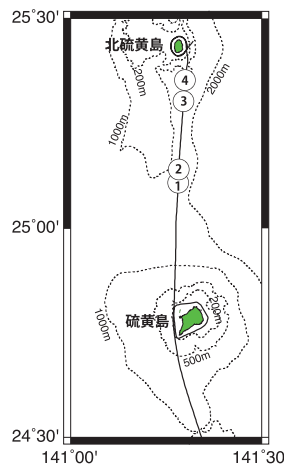
先月、毎年恒例となっている硫黄三島クルーズに参加してきました。小笠原周辺では、これまでに約20種の鯨類が確認されています。しかし、硫黄列島周辺に生息している鯨類については情報が少なく、良く分かっていません。

そこで硫黄列島周辺での鯨類の情報を蓄積するため、3年前からクルーズ中に目視調査を実施しています。調査では航路上で発見した鯨類や時間、頭数などを記録していきます。調査で発見した鯨類は4群で、地図上の番号は、鯨類の発見位置を示しています。

発見した鯨類は①アカボウクジラ、②マダライルカ、③種不明鯨類、④マッコウクジラでした。特にマッコウクジラは、船の近くに姿を現したため、多くの方が気付かれたようで、周りから大きな歓声があがっていました。



クルーズ中に発見したマッコウクジラ



硫黄列島のように、なかなか行くことのできない場所での発見情報は、鯨類の分布域解明のためにとっても重要です。小笠原には、未調査の海域がたくさんあるので、今後も機会を見つけて、どんどん調査を実施したいと考えています。